

(様式2)

令和7年度 授業改善プラン

地域名	北総教育事務所	学校名	成田市立遠山中学校
-----	---------	-----	-----------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- R7全国学力・学習状況調査によると、県平均より、平均正答率が下回っている。
- 知識・技能よりも思考力・判断力・表現力について下回っている傾向があり、知識・技能に比べ、思考力により課題がある。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 協働的な学びを推進するグループ活動を授業内に設定することで、生徒は協働性をもち、主体的・対話的に学習に取り組むことができるであろう。
- 授業内で少人数指導を取り入れ、自ら設定した課題に取り組むことによって、生徒は基礎的な知識・技能および、思考力・判断力・表現力を身につけることができるであろう。

3. 具体的な実践

- 場面に応じて次の3つのグループを使い分ける（ペア、4人の学びのグループ、自由な学びグループ）。
- 加配教員を活用し習熟度別少人数指導（標準・発展コース、基礎コース）を行った。単元の中で共通事項確認の際は一斉授業、技能面で差がつきそうな場面や、単元の利用で少人数指導を実施した。標準・発展コースは、複数のチャレンジ課題を、基礎コースは技能の定着を図るプリント学習を意識して取り入れた。

4. 成果

- 数学に対する情意面での向上が見られた（「数学の授業が好き」の肯定的評価が21ポイント増）。また、授業を個別最適な学びの視点でデザインすることができた（「自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の肯定的評価が12ポイント増）。

◆担当指導主事から

- 「共通事項は一斉授業」、「技能面は実態に合わせた少人数授業」は授業システムと興味深く、情意面の向上が見られたことは大きな成果である。授業展開においても、生徒に対する先生方の丁寧な支援が見られた。研究の取組が成果に表れ始めていると考えられたため、今後も生徒に寄り添い、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、情意面の向上や学力向上に向けた取組を継続してほしい。